

第29回

TAMA

とことん

討論会

ハイブリッド方式で開催!!

参加者募集

今回は「買い物」をキーワードに開催します。「買い物」はリデュースの事例として扱われることが多い行動の一つです。“マイバッグ”を持っていこう、“ばら売り商品”を買おう、“再生品”を選ぼう、などといったことについて、これまで幾度となく議論を重ねてきました。

そこで、今回は消費者である市民に向けて、商品を供給する側(作り手や売り手)の情報を提供し、「買い物」という日常的な行動からごみ問題を考えてみたいと思います。

- テーマ** 買い物から考える“ごみ問題”
- 日時** 2022(令和4)年3月5日(土) 12:30~17:00
- 会場** アウラホール(京王線聖蹟桜ヶ丘駅 京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター A館 6F)
- 参加費** 無料
- 主催** 第29回TAMAとことん討論会実行委員会  
(特定非営利活動法人東京・多摩リサイクル市民連邦、公益財団法人東京市町村自治調査会)
- 後援** 東京都、東京都市長会、東京都町村会、多摩市、多摩ニュータウン環境組合、公益社団法人東京都リサイクル事業協会、一般社団法人廃棄物資源循環学会
- プログラム** (敬称省略)

**作文優秀賞発表** 実行委員長 小石 恵子

**考察** 作文および調査結果

江尻 京子  
(特定非営利活動法人東京・多摩リサイクル市民連邦事務局長)

**基調講演** グリーン購入とごみ減量

深津 学治 (グリーン購入ネットワーク事務局長)

**講演1** エコショップ認定制度について

薄井 誠嗣 (多摩市環境部ごみ対策課長)

**講演2** 素材と対話するモノづくり

吉田 守孝 (ヨシタ手工業デザイン室)

**講演3** 食の作り手からのメッセージ

伊藤 正樹 (とうふや「おもむろ」)

**まとめとディスカッション** コーディネーター 山本 耕平 (ダイナックス都市環境研究所会長)

- 参加方法** (必ず事前に申込みをしてください。申込み先は右下にあります。)

- ・**申込み締切** 2月25日(金) 必着
- ・**定員** 100名(会場50人、オンライン50人の予定)
- ・**開催方法や参加方法が変更になる場合は**2月20日までに、ホームページでお知らせします。

#### 【オンライン参加】

・**申込方法** (メールで事務局までお送りください。)

〈件名〉オンライン参加希望  
〈本文〉氏名・住所・電話番号・所属・メールアドレス

※メールアドレスは当日受信を希望するアドレスをお知らせください。送信したメールと同様の場合は不要。

※会議システムは Jitsi Meet を使用予定。詳細は3日前までに申込者にあてに送信。

#### 【会場での参加】

・**申込方法** (メール・FAX・ハガキに次の内容を入力または記入のうえ事務局までお送りください。)

〈件名〉会場参加希望  
〈本文〉氏名・住所・電話番号・所属

※参加票を郵送します。参加票がない方は入場できません。また、社会状況等により、会場参加できない場合は申込者に連絡します。

### 作文募集 (共催 エコにこセンター)

**テーマ: 『ごみが減る! 買い物のくふう』**

対象: 東京都多摩地域在住・在勤・在学(小学1年生以上)の方  
締切: 2022(令和4)年2月15日(火) 必着

応募規定: 作文は本文400字~800字程度

本文とは別に作品のはじめに、題名、名前、住所等の記載が必要です。

※詳細はホームページ <http://www.renpou.org>

またはチラシをご覧ください。

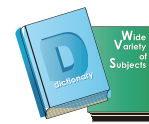
応募方法: 郵送: 〒206-0035 多摩市唐木田2-1-1

エコにこセンター 作文係

#### ●問合せ・申込み先

第29回TAMAとことん討論会実行委員会事務局  
特定非営利活動法人東京・多摩リサイクル市民連邦事務局内  
〒206-0011 多摩市関戸1-11-7 グリービル602号  
電話 070-3340-7006 FAX 042-400-0096  
ホームページ <http://www.renpou.org>  
Email [tama.recycle@gmail.com](mailto:tama.recycle@gmail.com)  
問合せはできるだけメールでお願いします。

★討論会参加者募集リーフレット、作文募集チラシをご希望の方は実行委員会あてにFAXまたはメールでお名前と住所をお知らせください。



特定非営利活動法人  
**東京雑学大学**

※受講の際は、必ずマスク着用のこと!

2022年3月講義案内

受講料 会員無料・会員外は1回につき500円

日時	講義テーマ	教授	会場
3月3日(木) 14:00から	私はハンマーになる -女子柔道、オリンピック種目への扉を開いた 米国の女性柔道家-	橋本 敏明 氏 (東海大学体育学部教授・ 望星学塾副塾長)	小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井商工会館3F)
3月10日(木) 14:00から	全国初の“終活互助”へのチャレンジ	川村 匡由 氏 (武蔵野大学名誉教授)	柳沢公民館 (西武新宿線西武柳沢駅南口 徒歩3分)
3月17日(木) 14:00から	プラスチック問題 -今、私たちができること-	国眼 孝雄 氏 (東京農工大学名誉教授)	小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井商工会館3F)
3月24日(木) 14:00から	地方創生とICT “中央コリドーの活動を中心として”	夔 昭男 氏 (YRP 研究開発協会会長・ 株)中央コリドー社長)	小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井商工会館3F)

☆申し込みは必要ありません。直接会場へお越しください。

[問合せ先] TEL 042-465-3741 (浅田) TEL 0422-52-0908 (菅原) 東京雑学大学ホームページ <http://t-zd.life.coocan.jp>

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、3月講義を中止させていただく場合があります。詳しくは東京雑学大学までお問い合わせいただくか、東京雑学大学のホームページをご覧ください。

#### 「多摩交流センターだより」の問合せ先

(公財) 東京市町村自治調査会 多摩交流センター

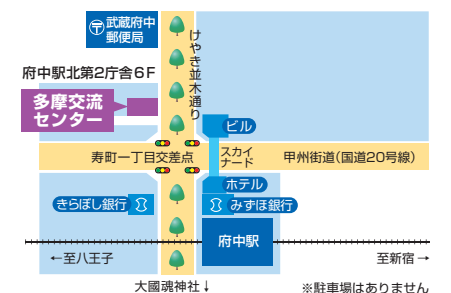
〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6F

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127

ホームページ <https://www.tama-100.or.jp>

(当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆多摩交流センターは、広域的なネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



### 編集後記

- 2月になりました。私のここ数年の2月~3月は、読書量が例月より格段に増えます。それは、毎年1月下旬に、4月に大賞が決まる「全国書店員が選んだいちばん売りたい本」の候補がノミネートされ、そのうちの過半を3月末までに読んで独自に順位付けし楽しむのがルーチンとなっているからです。読書の面白さには個人差がありますが、私の場合、知見を深めたり、自分なりに想像しながら話を読み進めることができ、共感したり感動したり怒ったり。時には、過去の自分の言動を自戒するきっかけとなるなど、この時期の読書は、新年度のスタートに向けて、気持ちをリセットするよい機会となっています。今年ほどのような作品に出会える心が弾んでいます。
- 話は変わりますが、先般、当調査会で実施している「気候変動対策研究会」の活動の一環として、栃木県那須塩原市及び福岡県久留米市を訪れお話を伺ってきました。昨年度はコロナ禍で中止しましたが、今年度は、緊急事態宣言解除となったことを踏まえ、PCR検査を受けた上で実施したものです。
- 那須塩原市では「気候変動適応の推進の取組」について伺いました。気候変動対策への取組が市長からのトップダウンで進められ、環境所管部局とは別に気候変動対策に特化した組織を立ち上げたことや適応計画は迅速性を優先し、環境省が提供する「地域気候変動適応計画策定マニュアル」を活用し策定したことなどが特長的でした。
- 一方、久留米市では、市の庁舎が、自治体所有の既存建築物で最も省エネ性能に優れた「ZEB(ゼブ)」として全国で初め

て認められたことから、その経緯などを詳しく伺うことができました(※「ZEB」とは、「Net Zero Energy Building」の略称で、LEDや断熱化など建物の省エネ化を図り、使用エネルギーを太陽光発電などで自ら創出することでエネルギー消費量をゼロにすること)。久留米市では、喫緊の課題であった環境部庁舎改修にあたり、環境部職員ならではの視点から部局横断の有志でZEB化を検討するチームを結成し、ボトムアップで既存建築物でのZEB化実現に繋がったこと、ZEB化によりCO<sub>2</sub>排出量削減に加え、電力代などランニングコストの削減で改修経費を補えること、執務環境改善に繋がることなど有意義な情報を得ることができました。また、那須塩原市と久留米市の両市とも62市区町村同様、関係部局の気候変動対策への理解が進まず苦労されていることも認識できました。今回の視察で得た貴重な情報は、今後の62市区町村の気候変動対策研究会の取組に役立てていきたいと思っています。

○ 緩和策の手段の一つに「ごみ減量」が挙げられます。毎年、当調査会の多摩交流センターと東京・多摩リサイクル市民連邦が共催して、ごみ問題に積極的に取り組んでいる多摩地域の市民が一同に会してごみに関する議論を深めていく「TAMAとことん討論会」を開催しています。29回目となる今年は、市民の買い物に焦点をあて、「買い物から考える“ごみ問題”」をテーマに3月に開催されます(詳細は本誌6ページ参照)。今年もハイブリッド方式(会場参加及びオンライン)での開催となりますので、興味のある方は是非ご参加ください。(K. K)